

科目番号	科 目 名	国際地域文化総合演習 I		担当教員：嘉納英明、高嶺司、 渡慶次正則、小番達、小嶋洋輔、 坪井祐司、照屋理、屋良健一郎、 メーガン クックルマン	
博国地 001	科目名 (英語)	International Culture and Area Studies Comprehensive Seminar I		嘉納英明：kano@meio-u.ac.jp 高嶺司：t.takamine@meio-u.ac.jp 渡慶次正則：m.tokeshi@meio-u.ac.jp 小番達：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 小嶋洋輔：y.kojima@meio-u.ac.jp 坪井祐司：y.tsuboi@meio-u.ac.jp 照屋理：m.teruya@meio-u.ac.jp 屋良健一郎：k.yara@meio-u.ac.jp メーガン：m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	各研究室	各指定時間
1. 授業の概要					
本授業は、本研究科博士後期課程に所属する教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たす。すなわち、学生は自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に応えながら、自らの研究の方向性を確認しテーマを深化することになる。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。					
2. 到達目標					
本科目は、環太平洋の地域文化を専攻する学生が、博士後期課程における自らの課題に関して、より総合的、多様かつグローバルな視点から自らの研究を深化することを目的とする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	イントロダクション、科目概要紹介、日程及び担当者の決定等、研究倫理と研究者の責務について				
第2週	学生による課題に関する基礎的な発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント				
第3週	学生による課題に関する基礎的な発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント				
第4週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による基礎的なリサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第5週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による基礎的なリサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第6週	学生による課題に関する基礎的な発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント				
第7週	学生による課題に関する基礎的な発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント				
第8週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による基礎的なリサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第9週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による基礎的なリサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第10週	学生による課題に関する中間発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、研究指導教員によるコメント				
第11週	学生による課題に関する中間発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、研究指導教員によるコメント				
第12週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第13週	学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、方向性の討論、研究の位置付け				
第14週	学生による課題の期末まとめ発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント、研究指導教員によるコメント				
第15週	学生による課題の期末まとめ発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント、総合演習のまとめ				

4. テキスト
【テキスト】 学生の専門、課題について、指導教員より適宜提示、提案する。 【参考文献】 学生の専門及び課題について、指導教員及び専攻教員より適宜提示、提案する。
5. 準備学習
発表の準備、論点の整理、ハンドアウト、パワーポイント等の準備
6. 成績評価の方法
授業での対応（30点）、基礎的発表（20点）、中間的発表（20点）、期末まとめ（30点）で評価する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。
7. 履修の条件
特になし
8. その他
成績評価は、各学生の指導教員が行う。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科 目 名	国際地域文化総合演習Ⅱ		担当教員：嘉納英明、高嶺司、 渡慶次正則、小番達、小嶋洋輔、 坪井祐司、照屋理、屋良健一郎、 メーガン クックルマン	
博国地 002	科目名（英語）	International Culture and Area Studies Comprehensive Seminar Ⅱ		嘉納英明：kano@meio-u.ac.jp 高嶺司：t.takamine@meio-u.ac.jp 渡慶次正則：m.tokeshi@meio-u.ac.jp 小番達：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 小嶋洋輔：y.kojima@meio-u.ac.jp 坪井祐司：y.tsuboi@meio-u.ac.jp 照屋理：m.teruya@meio-u.ac.jp 屋良健一郎：k.yara@meio-u.ac.jp メーガン：m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	各研究室	各指定時間
1. 授業の概要					
本授業は、国際地域文化総合演習Ⅰと同様、本研究科博士後期課程に所属する教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程2年次学生が、1年の研究期間を経た後で自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に応えながら、自らの研究テーマのさらなる深化を目指すものである。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。					
2. 到達目標					
本科目は、環太平洋の地域文化を専攻する学生が、総合演習の場で博士後期課程における自らの課題に関して発表・討論を行うことで、より総合的、多様かつグローバルな視点から自らの研究を発展・深化させることを目的とする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 インTRODakション、日程及び担当者の決定等、研究倫理と研究者の責務について 第2週 学生による発展的発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント 第3週 学生による発展的発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント 第4週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第5週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第6週 学生による課題に関する発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント 第7週 学生による課題に関する発表、専攻教員全員による質疑応答、コメント等、研究指導教員によるコメント 第8週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第9週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第10週 学生による課題に関する中間発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、研究指導教員によるコメント 第11週 学生による課題に関する中間発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、指導教員によるコメント 第12週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第13週 学生、研究指導教員、研究指導補助教員等による発展的リサーチ、整合性の分析、方向性の討論及び確認 第14週 学生による課題の期末まとめ発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、研究指導教員によるコメント 第15週 学生による課題の期末まとめ発表、専攻教員全員による質疑応答・コメント等、総合演習のまとめ					

4. テキスト
【テキスト】 学生の専門、課題について、指導教員より適宜提示、提案する。 【参考文献】 学生の専門及び課題について、指導教員及び専攻教員より適宜提示、提案する。
5. 準備学習
発表の準備、論点の整理、ハンドアウト、パワーポイント等の準備
6. 成績評価の方法
授業での対応（30点）、基礎的発表（20点）、中間的発表（20点）、期末まとめ（30点）で評価する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。
7. 履修の条件
「国際地域文化総合演習Ⅰ」を履修していること。
8. その他
成績評価は、各学生の指導教員が行う。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。